

町村週報

(町村の購読料は会費)
の中に含まれております

2662号

毎週月曜日発行

発行所 **全国町村会** 〒100 0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03 3581 0486 FAX03 3580 5955

発行人 山中昭栄：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110 8 47697

<http://www.zck.or.jp>

大根の干し棚 (宮崎県旧田野町)



随 想	随 想	情 報	フ ォ ー ラ ム	政 策
地場産業とデジタルテクノの共生	都市に「自然・文化との共生」の場を創る	町村Nav i	歴史から学ぶひとづくり・まちづくり〜地域文化が培う未来の自治〜	不採算医療・病院への財政措置を充実する一方、「病床利用率」で交付税を増減
長崎県町村会長 波佐見町長 一瀬 政太	愛知県蟹江町長 横江 淳一		滋賀県湖北町	総務省の公立病院財政措置検討会が報告書
(12)	(11)	(8)	(4)	(2)

閑話 休題

ノックアウト・マウスの創作から学んだこと

筑波大学名誉教授 村上 和雄

今年はずズミの年である。それにちなんで、ネズミの医学への貢献の話をする。私どもは、2007年ノーベル生理学・医学賞を受賞したオリバー・スミッシー氏と競い合いながら、高血圧の発症に関係するマウスの遺伝子を次々とノックアウトしていった。その中から、つくば低血圧マウスが誕生した。今や、一つ遺伝子をノックアウトすることににより低血圧マウスを作製する時代に入った。しかし、予想外のことが起こった。つくば低血圧マウスの挙動がおかしい。これを調べてみると、このマウスが行動異常を起こすことを見つけた。

すべての細胞は全く同じ遺伝情報(ゲノム)を持つが、その遺伝子は臓器が異なれば、全く違う働きをする。遺伝子は臓器によってオンとオフのパターンを変えることが分かり、今や一つの遺伝子が生体内で二役も三役もやっていると分かってきた。

生体内で重要な役割を演じているはずの遺伝子をノックアウトしたのにそのネズミには異常が全く現れない。そのような実験例が次々と見つかった。生体は一つの機能がダメになっても、それを補うための機能が準備されている。生体の機能は、単なる部品の集まりではない。遺伝子、細胞、臓器などがお互いに支え合い、助け合っていて、個体を生かすために働いていることを、ノックアウトの実験は私たちにあらためて教えてくれた。

写真募集
本誌表紙に掲載の写真を募集しています。四季折々の風物や行事など適当な写真がありましたらご寄贈下さい。(写真には題名、町村名を付けて下さい) 尚、採否は当方に一任願います。送り先:全国町村会・広報部

不採算医療・病院への財政措置を充実する一方 「病床利用率」で交付税を増減

総務省の公立病院財政措置検討会が報告書

総務省の「公立病院に関する財政措置のあり方等検討会」（座長・持田信樹東大大学院教授）はこのほど、公立病院への地方財政措置について、過疎地など不採算地区病院に対する財政措置などを充実する一方、公立病院改革を推進するため、「病床利用率」によって交付税措置を増減させることを検討するよう求める報告書をまとめた。ただ、「病床利用率の反映」が実現すれば、過疎地の不採算地区病院の財政措置が減少する可能性が高いため、「必要な配慮を払うべき」とも明記した。同省は年末の地方財政対策に向けて財務省等と折衝。年内にも公立病院への財政措置方針を地方自治体に通知する。

667事業体の75%が赤字

自治体立病院は全国で約1000あり、うち市町村立が約7割。2007年度決算では、全事業体（667団体）の4分の3が赤字で、全体として約2000億円の経常損失が生じ、累積欠損金も2兆円を超えている。しかも夕張市の財政破綻を受け、自治体財政を公営事業会計なども含めて厳しくチェックし、一定基準を超えれば財政再建団体などに転落する自治体財政健全化法が成立・施行。対策が急務となっていた。

このため、総務省は07年12月、「公立病院改革ガイドライン」を策定。

各自治体に対し、経営効率化 再編・ネットワーク化 経営形態の見直し の三つの視点から、「公立病院改革プラン」を08年度内に策定し、地域に必要な医療提供体制を確保するよう求めていた。

98%が今年度中に改革プラン

同省が今年10月に発表した「公立病院改革プラン策定の取組み状況」（08年9月30日現在）によると、同プランを「策定済み」は、1・4%だが、「今年度中に策定予定」が97・3%。同プラン策定に向けた検討体制も「設置予定」が11・4%あるが、「検討・協議の場を既に設置している」が41・9%、「既存の組織を活用」が37・7%と、8割近くが整備している。

また、公立病院の再編・ネットワーク化推進のための都道府県の取組み状況を見ると、「検討・協議の場を既に設置している」のは34・0%で、「既存組織を活用」が48・9%。ただ、やはり今年度中の策定を要請された再編等の計画・構想等は、策定済みが2・1%、「08年度中に策定予定」が55・3%だが、27・7%が「09年度以降か時期未定」とした。

同ガイドラインは同時に、公立病院改革に必要な財政措置として、プラン策定経費への交付税措置や、08年度に限って不良債務を長期債務に振り替える「公立病院特例債」を発行できることなどを盛り込むとともに、既存の地財措置の見直し方向も提示。これを受け、持田教授を座長に、中野撃司全国自治体病院開設者協議会副会長（青森県鶴田町長）、夕張の医療を再生させた伊関友伸城西大准教授らによる財政措置検討会が今年7月に発足し、11月に報告書をまとめた。

「不採算医療」の財政措置を充実を

報告書は、公立病院の経営・財政

政 策

措置の現状について、2兆円の累積欠損金など厳しい状況を指摘。その要因に、公立病院がへき地など採算確保が難しい医療を担っていることに加え、医師不足による診療体制の縮小や診療報酬のマイナス改定で収入が減少する一方、これに対応した歳出削減努力などが未だ十分進捗していないことなどを挙げた。

その上で、「今後の財政措置のあり方」として、過疎地の医療や、産科・小児科・救急などの「不採算医療」については、診療報酬上の措置と地方交付税など財政措置の適切な組み合わせにより医療提供体制を確保すべきとし、財政措置は充実させるべきとの方向性を提示。各自自治体が所定の経費負担区分ルールに従い、一般会計等から病院事業会計に適切な繰入を行う必要性も指摘した。

一方で、過疎地の病院施設整備費の財政措置については、一般会計の負担経費を現行の2分の1から引上げる是非に両論が出たことを紹介し、「引き続き慎重に検討すべき課題」と指摘するにとどめた。また、議論の中で、経営継続が難しい市町村立病院について、経営主体を都道府県に統合することが望ましいとの問題提起があったと紹介。議論の結果、検討会としては 都道府県に統

一する方法はあまりに多数の病院の収支を一本化することになり不適切。複数の市町村が一部事務組合や地方独立行政法人等を設立し、ここに経営主体を統合することを基本に、都道府県も参加する形も想定される。いずれにしても都道府県は再編・統合で積極的に連絡・調整の任に当たり、病院経営などにも一定の関与が期待される。で概ねコンセンサスに達したとし、今後の検討で留意を求めた。

合併踏まえ規模・地域要件を緩和

これらを踏まえ、報告書は、09年度以降の具体的な地方財政措置について提言。過疎地などの「不採算地区病院」の運営費への特別交付税については、市町村合併の進展を踏まえ、規模要件を現行の「病床数100床未満かつ1日平均外来患者数200人未満」等の要件を緩和し、範囲を拡大するよう要請。さらに、地域要件についても現行の「当該市町村内に他の一般病院が所在しないこと」等に代えて、直近の一般病院まで車で概ね30分以上など、「生活圏において唯一の一般病院」周辺の居住人口の集積が希薄で、病床規模拡大による採算性の確保が困難の

いずれかを満たす病院を対象とするよう要請した。

また、過疎地の病院施設整備費の財政措置充実のため、過疎対策事業債の償還年限（現行最長12年）や、辺地対策事業債の償還年限（現行最長10年）の延長も要請。さらに、公立病院勤務の医師の人件費について、厚生労働省が予算要求している新たな国庫補助制度や、国家公務員医師への給与改定の動向を踏まえ、適切に対応できるような所要の地財措置を求めた。

併せて、周産期医療や小児医療病床、救急医療への特別交付税も、一般会計からの繰出実態を踏まえて充実するよう要請。また、市町村が公立病院と同等の医療機能を提供している公的病院等に対して行っている助成について、公立病院に準じて特別交付税の対象に加えるべきだと提言。具体的には、病院の設置主体は、民法法人、社会福祉法人、学校法人等が設置する病院も対象。医療機能は救急、周産期、小児医療機能も対象とすべきとした。また、不採算地区病院等と同等の機能を有し、自治体等が設置した有床診療所について、公立病院に準じて特別交付税措置の対象とすべきとも提言した。

病床利用率を交付税に反映

一方で、公立病院改革を推進するため、病院建物の建築単価が一定水準を上回る部分は普通交付税対象となる病院事業債の対象から除外し、この財源を過疎地医療等への財政措置充実に充てるべきとした。

さらに、病床数に応じた普通交付税措置について、09年度以降の各病院における病床利用率反映の検討を進めるよう求め、11年度以降の普通交付税算定での反映に向け、内容・実施時期・移行措置等を「慎重に検討の上結論を得るべき」とした。ただ、その際には、小規模病院では病院規模に比例しない固定経費的財政需要が相対的に多額に上ることを踏まえつつ、過疎地の不採算地区病院の財政措置には「必要な配慮を払うべき」とした。併せて特別交付税は10年度以降の算定で、これに準じた措置を講じるよう求めた。

このほか、再編・ネットワーク化や経営形態見直しの財政措置は、同省の債務調整研究会の報告を踏まえて所要の財政措置を講じるよう提言。病院施設耐震化の地財措置も充実に検討するよう要請した。

(自治日報記者 内川正浩)

現 地 レ ポ ー ト

町村独自のまなびづくり

歴史から学ぶひとびとづくり。まちづくり。地域文化が培う未来の自治



はじめに

10月になると、遠くシベリア等から、コハクチョウやオオヒシクイなど多くの水鳥が琵琶湖に羽を休めにやってきます。琵琶湖に沈む夕日と、白鳥など水鳥のコラボレーションが見る人の心を癒してくれます。

滋賀県湖北町は、琵琶湖の北部に位置する人口約9300人、総面積29.08km²の小さな町です。総面積の約43%が農地で、土地利用型農業を中心に発展してきました。西は琵琶湖に面してお

り、遠浅な湖岸は「びわこ水鳥公園」と名付けられたとおり、水鳥の楽園です。琵琶湖にやってくる水鳥の約60%が、湖北一帯で冬を越します。また、本州でオオワシを見ることが出来る南限の場所として知られています。東は戦国武将「浅井長政」の居城であり、全国屈指の山城として知られる「小谷城跡」が、戦国乱世の歴史を伝えていきます。浅井長政とお市の方の3人の娘は、豊臣秀吉の側室となった茶々、京極高次の正室となった初、徳川秀忠の正室となり、三代將軍家光、後水尾天皇中宮和子(まさこ)を産んだ小督(おこう)、それぞれ戦国の世で数奇な人生を歩んだ事で知られています。

湖北町の伝統文化

湖北町には多くの文化的遺産が残されており、文化行事が守られています。

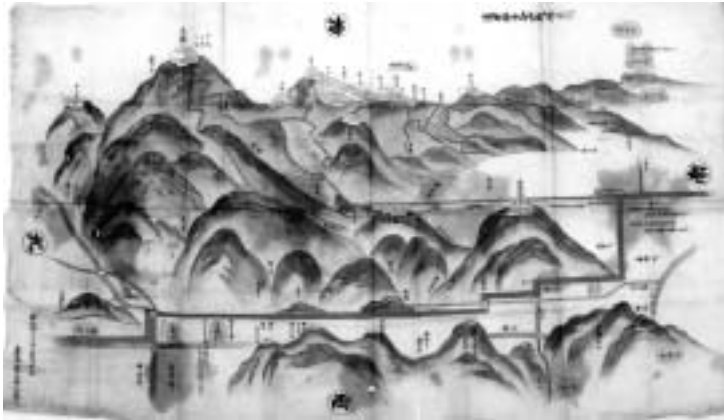
1月から3月にかけて、湖北地方では「おこない」と呼ばれる神事が村ごとに行なわれます。起源は東大寺の修二会に準じたお正月の法要とされ、雪



五穀豊穡を祈願して作り上げた青物御輿

フォーラム

小谷城跡絵図(湖北町所蔵)



深い湖北地方の村の年頭行事として村人たちの結びつきを強め、五穀豊穡を祈る祭りとなっていたといわれています。おこないの形式は村により少しずつ違いますが、大きな鏡餅を掲ぎ、「まいだま」といわれる餅の花を作り、鏡餅は、先祖の御霊を表しており、鏡割りをして村人に配られ、食することで1年の幸福を願います。「まいだま」は、木の枝に餅をつけて稲穂をかたどり、豊作を祈願するまじないと考えられています。

その他にも多くの伝統文化が守り伝

町を中心部「速水」には、近年多く

えられていますが、中でも速水伊豆神社の八朔大祭がその代表と言えます。八朔大祭は、伊豆神社において、毎年9月1日に行われる祭りで、五穀豊穡を祈願し、秋の収穫期を前に氏神様に参拝し、農民たちを戒め心積りを促す意味があるとされています。神社境内では、神事が行われるほか、露店が立ち並び、子ども相撲や子どもみこしが奉納されます。特に、青物御輿^{あおものみこし}や氏子から選ばれた青年が、鎧を身に付け、背中に母衣(ほろ)(長さ3メートルの竹を24に割り2個ずつ紅提灯を付けたもの)を背負い、半円を描きながら舞い、字内を練り歩く、幡母衣(ばんぼら)は、貴重な文化財となっています。

祭りで変わるコミュニティ

垂木はサトイモのズイキ、升形は高野

の住宅団地が造成され、町一番の人口増加地域です。急激な人口の増加は、集落の運営に様々な課題を生んでいます。従来の顔の見えるコミュニティではなく、住民の匿名性が高まり、住民同士の交わりが希薄になる「農村部の都市化」が進みつつありました。そんな課題が、祭りの中で解決されています。八朔大祭には、青物神輿^{あおものみこし}「幡母衣(ばんぼら)」と言つ2つの大きな伝統があります。「青物神輿」はその年の五穀豊穡を祈願して、郷内より収穫した五穀、野菜、果物、乾物、草花等約80種を使って作り上げた神輿です。神輿の鳳凰は、カボチャ・ススキ・鶏頭花、



五穀豊穡を祈る祭り、おこない

盆が過ぎると神輿づくりにかかり

豆腐などを使い、野菜・花・麩などで美しく飾られます。神輿の四面の造り物と呼び物で、童話や物語・歴史上の一場面を題材に取り上げ、ろんで作られた人形は火に触れても溶けないことが秘伝で、今も引き継がれています。正面柱の昇り籠、下り籠はシャガの根やカンピョウの種などが使われ精巧につくられています。今にも荒々しく舞い上がるように見えます。本物の野菜などを使いますので、2月の総会で青物神輿の奉納が決まると、保存会を中心に作付け担当が決まります。それぞれの作物は大きさなども決まっております。作付けは重要な役目です。8月お盆が過ぎると神輿づくりにかかり



48個の提灯を身につけた幡母衣武者

フォーラム

幻想的な雰囲気(幡母衣ばんばら)武者行列



行列です。「仲哀天皇」が熊襲親征(くまそしんせい)の時、伊豆神社に戦勝を祈願したところ勝利を得たため、当社に戦勝報告をされたことがはじまりと伝えられています。

幡母衣武者行列は、祭りの夜、若者が鎧を身にまとい背に24本に割った竹に48個の提灯をつけ、幡を立てた母衣(ぼろ)を背負い、字内を練り歩いて神社に参拝する行事です。武者が左右に体を振るたびに、母衣に吊された

48個の提灯の灯が揺れ、幻想的な雰囲気を醸し出します。母衣武者とは、矢を防ぐ母衣をつけた武者のことです。母衣の起源は、平安時代末期、背に五幅程の布をなびかせ後方からの矢を防いだものです。

幡母衣武者行列は、大正時代まで毎年行われていました。昭和に入ってから、神社の式年や国や地方の慶祝行事に行われていましたが、昭和11年を最後に途絶え、人々の記憶から遠ざかりつつありました。昭和63年9月1日、青物神輿母衣保存会により約半世紀ぶりに復活しました。その後も期待の声は途絶えることがなく、今年20年ぶりに復活させることが出来ました。

暗闇に赤い提灯の光が揺れる幻想的な光景は感動的で、老人たちの中に

す。保存会や老人会のみなさんが中心に進めていきますが、各所に住民のみなさんの参加を求めます。10日もすると神輿が出来てきます。そのころになると、一足先に神輿を見ようと多くの人が集まってきました。地域住民の共同作業で芸術品が生まれてきます。

担ぎ手は、集落の若者です。集落内を約2km程担ぎ、伊豆神社に奉納します。神輿の美しさと若者の勇ましさに沿道からは多くの声援が飛びます。若者たちは、賑々しく神輿を担ぎ、しっかりと神社に納めることで一つになります。地域ぐるみで祭りに参加することで、地域が一つになった瞬間です。

速水の住民が祭りに熱い情熱を向けるもう一つが、幡母衣(ばんばら)武者

は、「生きているうちに(ばんばら)を見られた」と言っ

て涙を浮かべる人もいました。今年幡母衣武者行列を奉納出来たことから、次回への期待が高まります。前々回から50年ぶりに復活させることが出来た。前回から20年ぶりに復活させる

ことが出来た。この歴史の重さを集落の人たちが感じています。「先人の思いに負けないように、次回までみんなで守っていこう」といった機運が出てきました。地域文化が、人と人をつなげる原動力になっています。

分権時代 自治への挑戦

浅井長政の父、久政は、地域の水争いを「餅ノ井落し」という行事で納めたとされています。「餅ノ井」組の村と、「大井」組の村との間で行われ、近年まで伝わっていました。

この行事では、「大井」組の村人と「餅ノ井」組の村人が、まず「餅ノ井堰」に集まります。「大井」組が堰の中央を幅三間(5.4m)で切り落とし、水を下流に流します。切り落とすときは道具を使わず手のみで行われました。「餅ノ井」組はこの作業を水をかけて妨害し、「大井」組の村人も水をかけて応戦しました。堰が切り落とされると、「大井」組の村人は帰ります。「餅ノ井」

浅井長政像(小谷城址保勝会所蔵)



組の村人は「大井」組の村人の姿が見えなくなるとすぐに堰を修理しました。修理は約3時間かかりました。切り落としした時、流れた水は「大井」組の村人の水田を潤しました。この行事は一步間違えば大きな争いになることも考えられます。戦国時代であれば、合戦になりかねない緊迫した行事でした。「餅ノ井落し」は、ぎりぎりの妥協点であったと考えられます。

浅井長政も、その強さの秘密は、地元・北近江の人々との結束力にあったと言われています。権力者による支配を拒み、村人たちが自ら治める「惣村」と呼ばれる村々が数多く存在したのが北近江であったと言われています。住民自治が戦国時代から出来上がっていたと言えます。長政は、村同士の争いの仲裁や村々にとって大切な祭の保護を通じて民衆の気持ちをくみ取り、北近江をまとめていきました。

フォーラム

町の鳥「ハクチョウ」



浅井久政・長政の時代から培われてきた自治の意識は、現代社会の中で形こそ変わりましたが、受け継がれていきます。湖北町はこの血を活かす自治を目指して、「歴史から学ぶ、ひとつづくり・まちづくり」を提唱しています。

終わりに

従来型の行政運営ではなく、地域経

営型の自治体経営が求められる時代となりました。そこで、未来型の住民自治を実現しようと、ミニ分権への取り組みを始めています。昔の集落とは相互扶助の精神がコミュニティを支えていました。この精神を復活させようと、地域文化と防災を切り口に町中の大改革をスタートさせています。

また、人口1万人に満たない小さな町が、行政事務をアウトソーシングするには、受け皿から整備する必要があります。そこで、町内の有志が私財を提供し、「株式会社まちづくり湖北」が昨年6月にスタートしました。第3セクターや公営企業によらず、民間の自由な経営手法によって、町の課題を解決していくことを目的とした会社です。早速、町の業務を請負い、財政負担の軽減や、職員数の削減に効果が現れており、今後に期待が膨らみます。会社を支えるのは、現役を引退された先輩の皆様です。職住近接で再雇用の受け皿になっています。

世界的な経済の冷え込みの中で、地域経営も厳しさを増しています。国の改革も同じかもしれませんが、地方分権改革は公務員改革が最優先です。公務員それぞれが、生活者に視点を置き、時代感覚を持った改革に取り組むことが大切です。

生活者起点の大改革は、町民の皆さんと共にスタートを切りました。

(湖北町長 南部厚志)

『(財)東京市政調査会 第22回『都市問題』公開講座』
これでよいのか！教育委員会

『都市問題』公開講座は(財)東京市政調査会の発行する月刊誌『都市問題』の特集などから時宜に合ったテーマを選び開催しています。

第22回は次のような趣旨により、「これでよいのか！教育委員会」をテーマとして開催いたします。多数の方々のご参加をお待ちしております。

【開催趣旨】

大分県教育委員会の教員採用汚職事件や、東京都教育委員会による教職員の処分問題など、近年、教育行政のあり方が根本的に問われる事件が相次いで起こっている。そればかりか、教員の人事権・人件費、教育委員会の運営方式、校区廃止、学習指導要領、全国学力テスト、学校運営協議会など、教育行政をめぐる議論は尽きない。何よりも子ども達にとってよりよい教育を実現するために、教育委員会制度はどうあるべきか、なにをどう変えるべきかを議論する。

1、日時

2009年2月7日(土)

13:30~16:30

2、場所

日本プレスセンター 10階ホール

(〒100-0011)

東京都千代田区内幸町2-2-1

3、プログラム

△基調講演▽

山出 保氏(金沢市長)

△パネルディスカッション▽

竹下 譲氏(三重県教育委員会委員長)

長)

玉木 研二氏(毎日新聞論説室専門編集委員)

集委員)

福井 秀夫氏(政策研究大学院大学教授)

授)

山中 伸一氏(文部科学省スポーツ・青少年局長)

少年局長)

新藤 宗幸氏(千葉大学教授)△司会▽

4、参加費 無料

5、参加申込み

東京市政調査会ホームページ

(http://www.tmr.or.jp)からお申込み

ください。

6、申込み期限

2009年1月30日(金)

満席となりしだい受付を終了します

ので、お早めにお申込みください。

問合せ先:

東京市政調査会 研究室

TEL:03-3591-1261



町村Navigationでは掲載情報を募集しています。
掲載をご希望の場合は全国町村会広報部
(TEL03-3581-0486)まで

島津町 住民主導の地域づくり
泊覧会を展開

町は来年度の1年間、潜在資源の掘り起こしや既存資源を活用した「住民主導による地域づくり泊覧会」を展開する。同町は2006年に4町村が合併して誕生したが地域間格差の是正などが課題。このため、「町内各集落がパビリオン」と銘打ち、泊覧会期間中に各エリア事業や地域連携事業などを実施。観光・交流・モノづくり・情報発信の基盤づくりや、各地域を結ぶアクセス向上・連帯感の醸成などを狙う。

同町は、田島、伊南、館岩、南郷の各地域(旧町村)を「やまなみ街道」(一周80キロ)が山手線のように一周する。泊覧会の基本計画は、4地域の在住の約40名の委員が半年かけてまとめた。地域連携事業では、「やまなみ街道駅伝大会」や、「郷土芸能の祭典」、「南会津『秘境の滝』フォトコンテスト」、「南会津『わが町の名人』台帳の作成などを予定。また、各エリア事業では、「桜まつりウォーキング」(田島)、「真夏の雪むろそばまつり」(館岩)、「鮎の里」づくり強化(伊南)、「ふるさと清流」伊南川「体験」などが行われる。同町は200万人(100万泊)の動員を目指す。

栃木町 眼科等誘致で助成条例

町はこのほど、「診療所開設助成条例」を制定した。町内にない眼科や耳鼻咽喉科などの診療所を誘致するため、開設する医者に助成金の交付や町有地の無償譲渡などを行う内容。こうした条例は県内初。

同町にも以前は眼科などがあったが、医者の高齢化などで皆無に。町民の要望などを受けて町も誘致に取り組んできたが、うまくいかなかったため、同条例を制定することにした。

条例等によると、助成条件は、診療所を10年以上開業する意思があり、眼科や耳鼻咽喉科、皮膚科等の医療を行うことなど。土地・建物等の固定資産税や取得費、賃貸料、改修費に助成金を交付する。例えば取得費は、取得価格の2割の額で2000万円を限度に助成。また、町有地の無償譲渡・貸与も行う。正当な理由がなく10年以内に診療所を廃止した時は助成金の全部または一部を返還させることができる。このほか、町長は助成金の決定では、町議や学識者、医師会代表者による「審査委員会」に意見を聞く。

基知果美大 公立病院から派遣
職員を受け入れ

基目寺と大治、美和、七宝の4町は10月から、一部事務組合により運営している公立尾陽病院から派遣職員を受け入れている。病院職員の協力を通じた、尾陽病院と各町の連携強化や事務処理の効率化などが狙い。

同病院は、基目寺町内にあり、村上浩司町長が管理者。同病院では、医師不足や病床数削減の影響で患者数が減少したが、一般職員の数は維持されていた。一方、各町では、育児休暇や病気による休養などで職員が不足していた。

派遣されたのは各町2名ずつの計8名。各町で一般事務などの職に就いている。派遣期間は病院と各町の協議により更新・延長・短縮があるが、今回は2年間の予定。派遣職員の給料や諸手当等は尾陽病院が支給するが、各町が負担。休日勤務や時間外勤務手当は各町が支給・負担する。

府 ふるさと納税でHPに
「むらのプロゲ」

村ではふるさと納税の千早赤阪村版「ふるさと応援寄附金」の拡大を狙いに村のホームページに「むらのプロゲ」を11月から開設。村内・外の人を問わず村のいところ情報」の掲載を募集している。

多くの自治体が「ふるさと納税」拡大に知恵を絞っているが、村では「プロゲを見た人が千早赤阪村をすぐそばに感じ、寄附のきっかけになれば」と開設した。誹謗中傷等を除き村のできごとの掲載を広く募集している。また同プロゲ応援隊として、ふるさと貯金箱「ふらい坊」

良 定住・移住促進へ来年、
IT会社設立

村では、過疎対策の一環である定住・移住施策を実施するに当たり、定住の基盤となる「働く場」の確保を目的として、来年4月に民間企業と協働でIT関連会社を設立する。地理的な制約がないIT企業の特性を生かしたもので、村では「このような取組みは、県内で初の試みで、全国的に見ても例がないのではないか」としている。

森林が93%を占める村では、「恒久的な過疎化」で人口減少(12月1日現在1、259人)が続いている。このため、村では「定住・移住」に繋がる住宅用地や空家情報の提供、CATVによる情報基盤整備を行ってきた。また、村の温泉施設や村営ゴルフ場が村民料金で利用可能とするなど、定住・移住への積極的なPRも進めている。しかし、「若者定住・赤ちゃん誕生10人」(総合計画より抜粋)の達成には、「新たな雇用の確保が急務」として、岐阜県大垣市にある㈱サイエンスネットと協働で、㈱下北山情報ネットワーク(仮称)を設立することにした。募集する社員は3人で、職種はプログラマー、SE、WEBデザイナー。入社後1〜2年、サイエンスネットワーク社での研修を経て、村内の新会社で勤務する。

なお、新会社は株式方式で資本金1、000万円を予定。村と㈱サイエンスネットがそれぞれ株の49%を保有し、残り2%は、第三者の方が保有する予定だ。

情 報

新任都道府県町村会長の略歴

静岡県町村会は平成20年10月9日の臨時総会で次のとおり会長を選出した。

(11月1日就任)

静岡県町村会
賀茂郡松崎町長

深澤 進

昭和7年9月22日



【住所】静岡県賀茂郡松崎町松崎321
15

【町長に当選するまでの経歴】平成3年松崎町議会議員(3期) 11年同町議会議長 13年松崎町長

【町長としての当選回数】2回

【町村会関係の経歴】平成20年静岡県町村会副会長 20年賀茂郡町長会会長

【主な業績】公共の宿・伊豆まつざき荘建替 西豆衛生プラント組合し尿処理施設整備 松崎中学校・役場庁舎耐震補強工事 第4次総合計画策定 こて絵のまちづくり推進 花いっぱい運動推進 フィルムコミッション活動

【趣味】ゴルフ

【家族】母・妻・子3人

大分県町村会
玖珠郡九重町長

出した。

(10月20日就任)

大分県町村会
玖珠郡九重町長

玖珠郡九重町長

坂本 和昭

昭和16年9月17日



【住所】大分県玖珠郡九重町大字町田2952番地の1

【町長に当選するまでの経歴】昭和50年九重町議会議員 60年同町議会議長

平成4年九重町長

【町長としての当選回数】6回

【町村会関係の経歴】平成15年大分県町村会会長

【主な業績】日本一の規模を誇る「九重」夢「大吊橋」の開通 「2008ブルーベリーin九重」の開催 平成20年度中の町内全域への光通信網整備 「九重町第二次総合計画」及び「第三次総合計画」策定による自立した町民との連帯・協働・対話によるまちづくりの推進

【趣味】山の手入れを兼ねた散策

【家族】妻・長男夫婦・孫・母

町村長の皆様へ
囲碁同好会にご入会下さい！

囲碁は、右脳を刺激するものです。右脳は文化芸術、生涯学習、健康長寿にとつてきわめて大切なものとされています。

さらに、礼にはじまり礼に終わる、布石から寄せまで、政治や選挙、事業経営においても、その考え方はきわめて有効だとされております。

(財)日本棋院や(財)関西棋院は、文部科学省の管轄下にあり、子供の教育に積極的にとり入れるという意見も出ております。

そんなことで、囲碁を理解され、愛好しておられる町村長さんもたくさんおられることと存じます。

そこで、従来からやっておりました全国市長会の囲碁同好会より、全国町村会によびかけ「全国市町村長囲碁同好会」として、昨年、新生出発させていただきました



ました。すでに新潟県の渡邊聖籠町長さんも参加していただいておりますが、囲碁に関心のある方はどうぞご入会していただき、伝統文化でもある囲碁普及にご尽力賜りたいと念じております。

年間行事

総会及び大会
日本棋院東京本院(市ヶ谷)にて、大竹英雄理事長(名誉碁聖)、林海峰九段などそうそうたる棋士の参加の下開催。対戦もあり。

囲碁サミットの参加
平塚市で行われた第1回サミットに参加。次回(来年)は、尾道市を予定。それぞれの自治体で教育、生涯学習に囲碁をとり入れる努力をすると同時に、日本棋院、関西棋院とタイアップして普及につとめる。

全国市町村長囲碁同好会
会長・京都府綾部市長 四方八洲男

【お申し込み先】

全国市町村長囲碁同好会
03・3262・6585

昔の遊び、今の遊び

影ふみ遊び、昔と今

子ども調査研究所長 高山 英男

イギリスの劇作家J・バリーが書いた「ピーターパン」は、一世紀以上にわたって世界中の子どもたちの心をとらえ、熱烈に支持されてきた。永遠に大人にならない少年ピーターパンは、少女ウェンディの家を訪問したときに自分の影法師を忘れてきてしまい、それを取りに行った際に寝ていたウエンディを起こしてしまい、二人の冒険の旅が始まる。

こうして子どもの世界では影法師は切っても切れない親しい友たちとなった。祖父母や父母の子ども時代には、影ふみ遊びがよく遊ばれた。昼から夜へ、たそがれ時、友たちとの野外遊びを終えて、「またあした」と家路をたどるその前に、「もうひと遊び」と子どもたちが走り回る遊びが「影ふみ遊び」であった。街灯の下では子どもの影が地面に映し出される。鬼をひとり決めて、鬼は子どもたちの影を踏むために追いかけて、影を踏まれないように子どもたちは逃げ回る。踏まれそうになったらしゃがんで影を短くしたり、家や樹木の影に自分の影をくっつけて影を消してしまう。そして少しでも影を踏まれたら、今度はその子が鬼になるのである。

影法師が映し出されるたそがれ時には、子どもたちの遊び場であったお寺の境内や空き地にはお化けや怪人が出現す

ると怖がれていた。今日では、そんな遊び場も消滅し、「誘拐犯や殺人犯が怖いから、明るいうちに家に帰ってくるのですよ」と、親や先生に強くいわれて、子どもたちは早足で家路をたどるのである。

何よりも今の子どもたちは、暗くなるまで仲間と野外で遊びまくるといふ経験をしなくなった。下校後も、学習塾やピアノ、バレエなどの習いごと教室が何時から何時までと絶対的な時間によって決められ、子どもたちの生活時間は学校、習いごと教室、スポーツクラブなど大人の決められた時間割によってスケジュール化され、時のたつのも忘れて遊ぶという自由な遊び時間、地域社会の近隣遊び仲間、自由でアナーキーな遊び空間、子どもの世界から自由な三間が消滅することによって、子どもたちは自分自身の「影法師」も失ってしまったのかもしれない。

【町村長手帳・資料編の訂正について】

「町村長手帳2009年版」別冊「資料編」収録の町長名に誤りがございました。

資料編13頁・大阪府南河内郡太子町 課：浅野勝己

正：浅野克己

謹んで訂正し、お詫び申し上げます。

縮 減 ! 時 間 外 勤 務

～ 時間外勤務縮減のためのチェックシート～

Check Sheet No 1

環境整備

- 一斉定時退庁日を設けていますか?
- 幹部職員は率先して退庁をしていますか?
- 早出・遅出勤務の活用をしていますか?

Check Sheet No 2

業務改善

- 日ごろの事務に無駄はありませんか?
- 同じような事業が増えていませんか?
- 業務改善努力を評価していますか?

● 心身ともに健康で活力ある職場づくりの実現を! ●

随 想

随 想

愛知県蟹江町長

横江 淳一

都市に「自然・文化との共生」の場を創る



「先人から受け継いだ資源・文化・知恵などの資産を後世に引き継ぐために」

昭和17年、蟹江町を訪れた文豪吉川英治は、情緒あふれる水郷景観に出会い「東海の潮来」と絶賛し、この地をいつくしんだといわれる。

当時は、一面に田と内川（クリーク）が縦横無尽に走り、クリークを舟が行きかい、農業が営まれていた。伊勢湾とつながる河川は、戦国時代から伊勢湾の海上交通路の要衝として栄え（現在の舟入地区）、百石船が入港し、両岸には倉庫が連なり、水運を中心とした経済活動が営まれていた。さらに河口部は漁師町としても繁栄していた。まさにどの産業も川との密接な関係で成り立っていた。

しかし昭和34年、この地方を襲った伊勢湾台風は、農業・漁業に甚大な被害をもたらした。この機を境に蟹江町は大きく変貌して、大都市名古屋のベッドタウンに姿を変えていった。そして、高度成長による都市化の波は、水郷景観や自然の営みを一変させた。わずか30年足らずの間に、川は汚れ、水辺の生き物は姿を消し、かつての面影が失われてしまった。

平成元年に策定した第2次蟹江町総合計画は、この事実を踏まえ、「まちづくりの戦略プロジェクト」として「水郷の里再生計画」を掲げ、再び蟹江の水郷景観と環境を甦らせるために町民ぐるみで展開することに決めた。

その後、国が展開していた地域再生推進のためのプログラムに応募し、平成16年12月8日に「水郷の里再生計画」が認定された。私が地域再生・都市再生を考える上で常々考えさせられることは、「再生とは、なんぞや」である。

かつて人の暮らしに息づいた産業によって形成された町並みは、その時代にあつた道幅であつたり、川幅であつたりした。漁師町であつた舟入地区は全盛期でも、生活道路は魚を天秤棒で担いですれ違える幅でよかったし、幹線道路は大八車がすれ違える幅でよかったのである。

暮らしの中に産業機能を失った地区では、人々は自動車社会に対応するため、特に若者は郊外に移り住み、お年寄りだけが残り、徐々に空き家が増え、生活の機能を失いつつある。当時を伝える町並みは水郷の里を造り上げてきた蟹江独自の風情そのものであるが、これもまた消えつつある。

日本らしさ、蟹江らしさの原風景は何処まで残せるのだろうか、残すべきなのだろうか。産業が暮らしに密着すればその町並みは受け継がれていくが、その産業を復活させるすべはない。であれば、住む人の時代にあわせた、新たな再生を図るしか策はないのだろうか。

「利便性のよいまちベッドタウン」だけに甘んじてはいられない。「蟹江はどういう町だ」と尋ねられた時、胸を張って答えられる魅力（売り）を住民とともに創り上げていきたいと思っている。

わが町の資産は人である。ひとつには観光にこられた皆さんに「町民のおもてなしが温かく感じられるまち」を土産として持ち帰っていただき、「また訪れたい」と思っていたらどうにしたいかと考えている。

住民が支えるまちづくりが私の目指す自治体経営である。

あるが、何となく身近な感じがする。これは、長く住み次の世代へと

随 想

随 想

長崎県町村会長

波佐見町長

一瀬 政太

地場産業と
デジタルテクノの共生

長崎県のほぼ中央に位置する『陶磁と緑のまち波佐見』は、東は佐賀県武雄市、嬉野市に、北は佐賀県有田町、西には長崎県佐世保市、南は川棚町に接し、長崎県、佐賀県の県境にあります。

海洋圏の長崎県で唯一海に面していない町で、地形的には周囲を小高い山々に囲まれた盆地の形態をなし、総面積五十六平方キロメートル、人口二万五千四百人、窯業と農業を基幹産業として発展してきました。

波佐見焼は、豊臣秀吉の朝鮮出兵の折、大村藩主が朝鮮人陶工を伴って帰国し、開窯したのが始まりです。

特に昭和四十年代以降は高度成長の波に乗り、分業化と機械化を図り、良質な陶磁器製品を全国に供給し、全国和食器の約十七%のシェアを有し、平成元年前後には販売額で二百五十億円、生産額で百六十二億円の業績を残しましたが、バブル崩壊により現在では生産、販売

ともピーク時の約三分の一までに落ち込み、低迷しています。

私は平成十年に町長に就任しましたが、その数年前に、中央小学校や、総合文化会館、給食センター等の建設で約六十億円の膨大な投資がなされ、

財政が逼迫する中、更に公共下水道事業、土地区画整理事業等の大型事業が決定し、十一年度から事業着手となったため、平成十年度に、波佐見町財政構造改善計画』を策定し、徹底した行財政改革に取り組み、事業の推進を図ってまいりました。その結果平成十年と比較して平成十九年度においては、職員数が百十八人から百五人へ、地方債の残高が八十一億七千万円から七十億九千万円に減積

立金が十億七千万円から二十億六千万円に増となりました。職員数は類似団体で住民一万人当たりの職員数が全国一少ない町となりました。

また、市町村合併については、県内でも理想の枠組みと言われた東彼

杵郡三町での合併を目指し、平成十四年十一月に合併協議会を設置し、協議を進めてきましたが、協議の途中でお互いの理解が得られず平成十七年三月に破綻し解散しました。

その後、直ちに住民に対し状況報告と『行財政改革・集中5カ年計画』を提示し、当分は単独でいくことへの理解を求めました。

このような中、本町の地域再生策の重点施策として、『地場産業の振興、観光推進、企業誘致』を掲げ町の活性化に取り組んできました。

低迷する窯業ではありますが、進化する波佐見焼』をテーマに、電子レンジや食器洗浄機対応の食器、ユーザー志向の新商品、エコタイル・蓄光陶板などの商品開発を進めるとともに、東京ドームをはじめ都心での需要開拓・PR活動を積極的に進め、官民一体となった波佐見焼ブランドの確立に取り組んでいるところです。業界内では、今、全国一元気のある陶磁器産地』として評価されています。

また、観光推進においては、平成十三年に、来なっせ百万人』をスローガンに掲げ、産業体験型観光(クラフトツーリズム活動)に取り組むとともに、『陶器まつり・桜陶祭・棚田まつり』等の個性あるイベント開催により交流人口が毎年漸増し、現在約六 万人となっています。

来秋には『新温泉センターとポーピア』の開設もあり、二、三年後には目標達成と交流人口の拡大による町の活性化がさらに期待できるものと思います。

企業誘致においては、平成十七年長崎県が工業団地の整備方針を示した時、即座に手を挙げ、工業団地の誘致に向けた活動を展開し、地権者への協力依頼、職員の県部局への派遣等積極的取り組み、平成十八年に正式決定されるに至りました。

平成十九年には四十ヘクタールの用地交渉が短期間で成立、二十年当初から造成工事に着手され、一月末完成を目指しています。造成半ばの本年七月七日には、カメラ業界の世界的トップ企業であるキヤノンの進出が決定されました。

予想も出来なかつた有名大企業の進出に県を始め、町内でも大いに話題が沸騰しているところです。キヤノンの進出により、本町の活性化はもとより、県北、県央の活性化と雇用の創出に大きく貢献できるものと期待しています。

波佐見町再生の三本の柱が、今、まさに緒に就いたところであり、今後は本町の歴史文化や地場産業と世界の最先端の大企業との共生を図り、地域力を最大限に生かした町づくりを進めたいと思っています。